

高床式一階（ピアノ・リアルツァート）

1932年、ジジーナとネッダ、ネッキ姉妹は、アンジェロ・カンピリオとともに、自然の喜びを享受しながらも、最新の技術と洗練された建築美を兼ね備えた住まいを求め、パヴィーアからミラノへの移住を考えます。設計は、すでに民間建築やプラネタリウム・ホエプリを手がけていた、20世紀ミラノを代表する建築家ピエロ・ポルタルッピに依頼されました。

ポルタルッピの構想は、非常に明確でした。プライベートな庭園に囲まれた邸宅、ミラノ市初の個人用屋外プール、テニスコート、大きな木々と木陰の散策路などが計画され、特に近代的なデザインと高品質な素材、機能が一体化された建築が特徴です。1800年代末の折衷様式の邸宅と違い、ヴィッラ・ネッキ・カンピッリオは理論的かつ明るく清潔で、庭園へと広く開かれた流動的空間によって、新しい住まいのあり方を提案しています。

ヴィッラへ着くまでのアプローチは、まるで小さな儀式に参加しているようです。小径はゆるやかにロンバルディア産チェッポ石を有するいくつかの外壁へと、またその他のとても特徴的な石材、半地下階部分の花崗岩と大理石が交互に用いられた外壁へと導きます。半円形の大大理石階段は曲線状の庇に覆われています。この階段は、幾何学的な堅牢さと視覚的な軽やかさのバランスという、ポルタルッピの建築様式を表しています。

入口にある**玄関ホール**は来客を迎えるための広い空間で、ポルタルッピ特有の「グレカ文様」の手すりは装飾モチーフとして邸内のさまざまな細部で繰り返し用いられています。加えて存在感のある芸術作品、マリオ・シローニの絵画《羊飼いの家族》や、アルトゥーロ・マルティーニによる繊細な彫刻《死せる恋人》が邸宅を豊かにし、両大戦間期のイタリア美術の趣味を伝えています。



ホール

図書館は最も良好に保存された空間の一つで、ポルタルッピによるモダンな優雅さを象徴しています。壁はローズウッドでできた書棚に囲まれ、一種の「部屋の中のサロン」を形成しています。光と使用されている素材は調和的で、対話をしているようです。隣接する大広間へとつながる窓は、庭園に面しており、柔らかな光を通していています。



図書館

続き

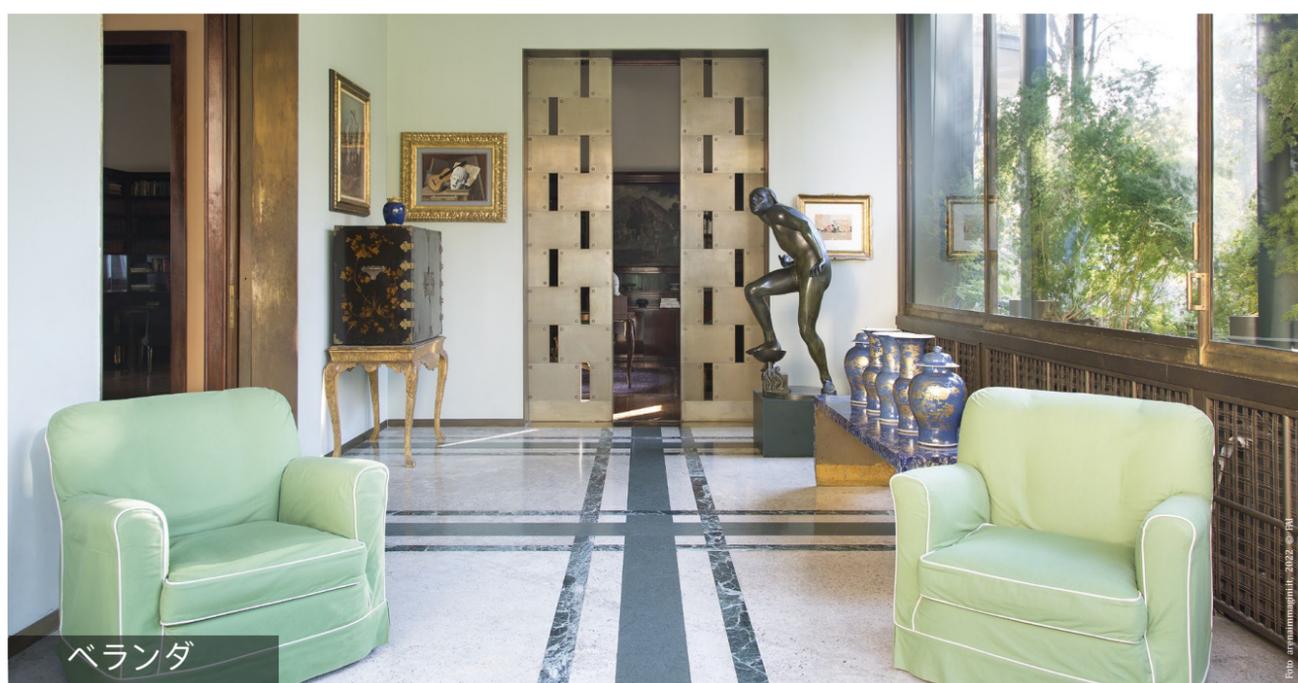


16世紀の貴重なウシャク絨毯（ホルバインの絵画の例に似ていることからホルバイン絨毯とも呼ばれる）の上には、1921年制作のアルトゥーロ・マルティーニ《少女の胸像》が置かれた机があります。フランス小説、美術書、旅行ガイドなどの蔵書は、家族の文学的・文化的関心の傾向を示しています。菱形模様の天井は幾何学的・躍動的で、これは邸内の他の部屋にも共通する装飾モチーフです。

大広間は、ポルタルッピの厳格さではなく、トマーゾ・ブッツィによる柔らかな趣を備えています。家族は当初の設計の様式を和らげるため、数年後にブッツィを招き、彼は18世紀の要素である曲線的なソファ、ルイ15世様式のシャンデリア、刺繍入りのカーテン、金色の額縁などを取り入れました。ここで邸宅は近代的な住宅であるだけでなく、ヨーロッパ王侯貴族を含む名高い賓客へも開かれたミラノの社交の場へとその興味を変えます。

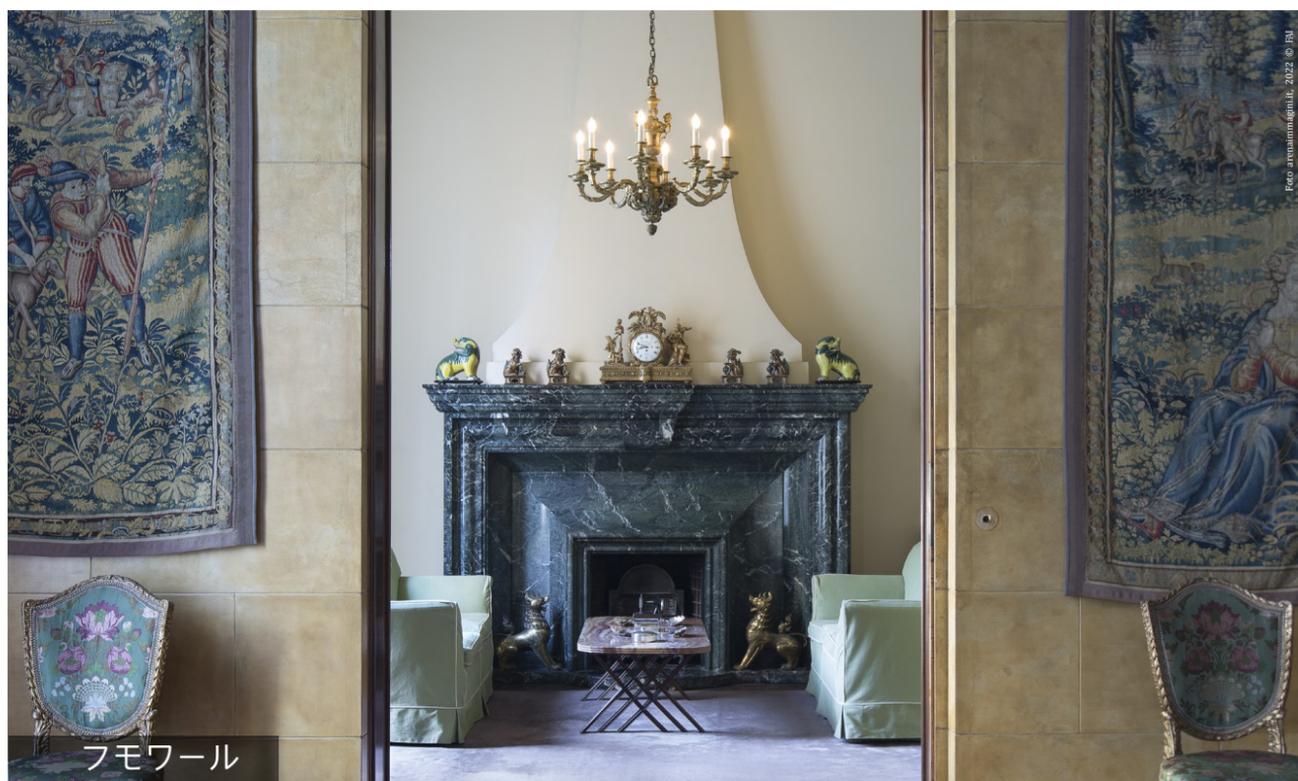
この広間には、ジャン・フェラーリ・コレクションの重要作品、モランディによる形態と色彩の間の均衡を模索した静物画2点と、ジョルジョ・デ・キリコの20年代の傑作である《オレステとエレットラ》《アルフレード・カゼッラの肖像》が展示されています。この2枚の絵画は、デ・キリコの形而上絵画以後の作風の進化を表しています。

ベランダは、ポルタルッピが室内と庭園を結びつけることを意図して作った、孤立した明るい空間です。セージグリーンの壁面、幾何学模様の床、精密な機構で動く洋白製の引き戸が、内と外の境界を曖昧にする静かな空間を作り出しています。1930年代のラピスラズリ製テーブルの上には、当時広く流行した異国趣味を彷彿とさせる東洋の花器が置かれています。



ベランダ

フモワール（喫煙室）は、ポルタルッピからブッツィへの「引き継ぎ」が最も明確に表れた空間です。ここではブッツィによって柔らかなソファ、軽やかな小卓、豪華な暖炉が設けられ、居心地のよい雰囲気を生み出しています。ここはネッキ姉妹が午後に、友人を迎え、コーヒーを飲みながら雑誌を読むのに理想的な場でした。ブッツィの改装により上塗りされたポルタルッピの引き戸は、後のFAIによる修復で復元されました。

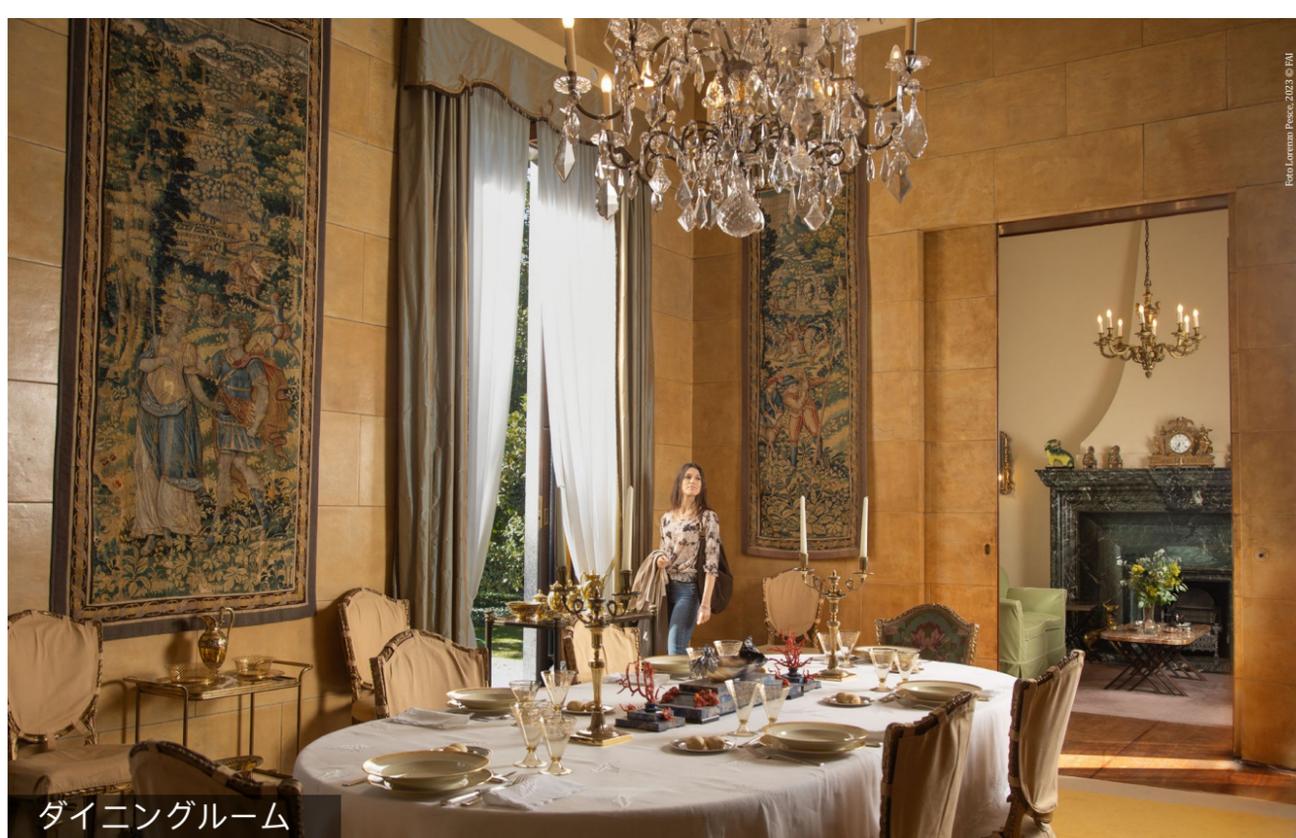


フモワール

続き

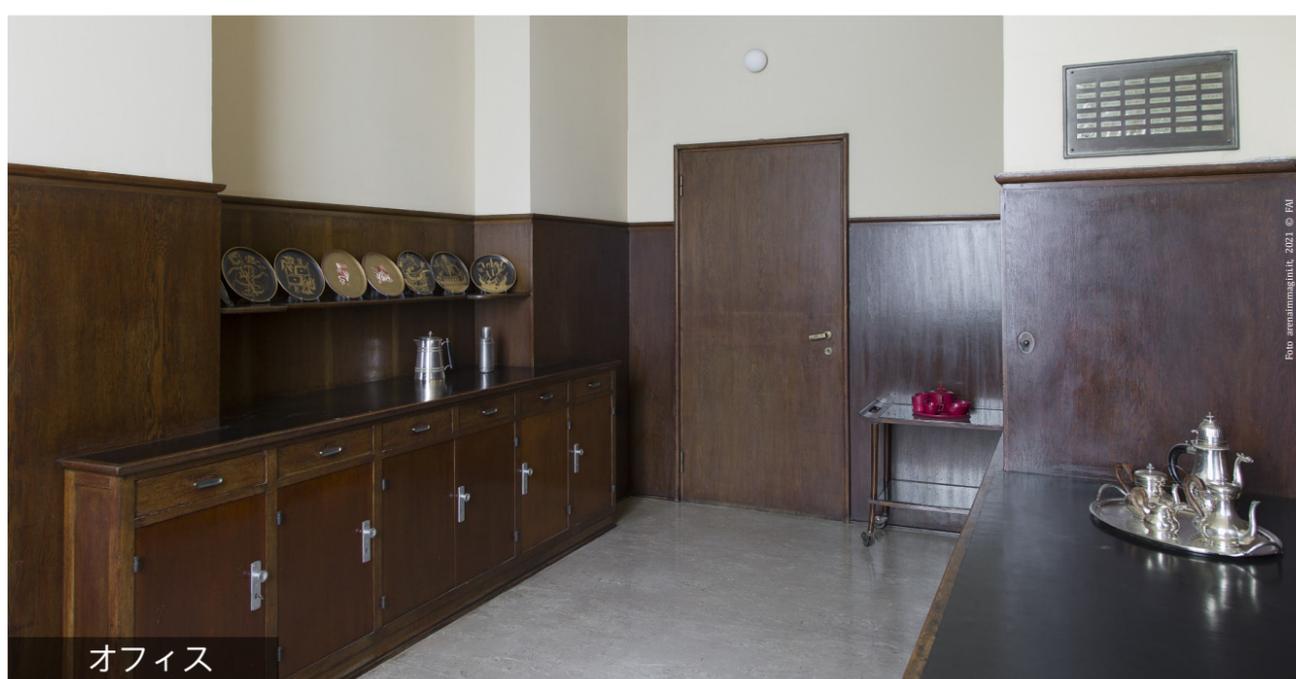


ダイニングルームでは、興味深い装飾の重ね合わせが見られます。一方には羊皮紙装飾による壁面や、動物、帆船、12星座のシンボルで構成されたポルタルッピの浅浮雕天井が、他方には、18世紀の色調を取り入れたブッツィのフランドルのタペストリー、家具、大型シャンデリアがあります。部屋の中央には、彼の金細工への家族の情熱が感じられる、アルフレード・ラヴァスコ作、銀製の魚をあしらったラピスラズリの台座の壮麗なセンターピースが置かれています。



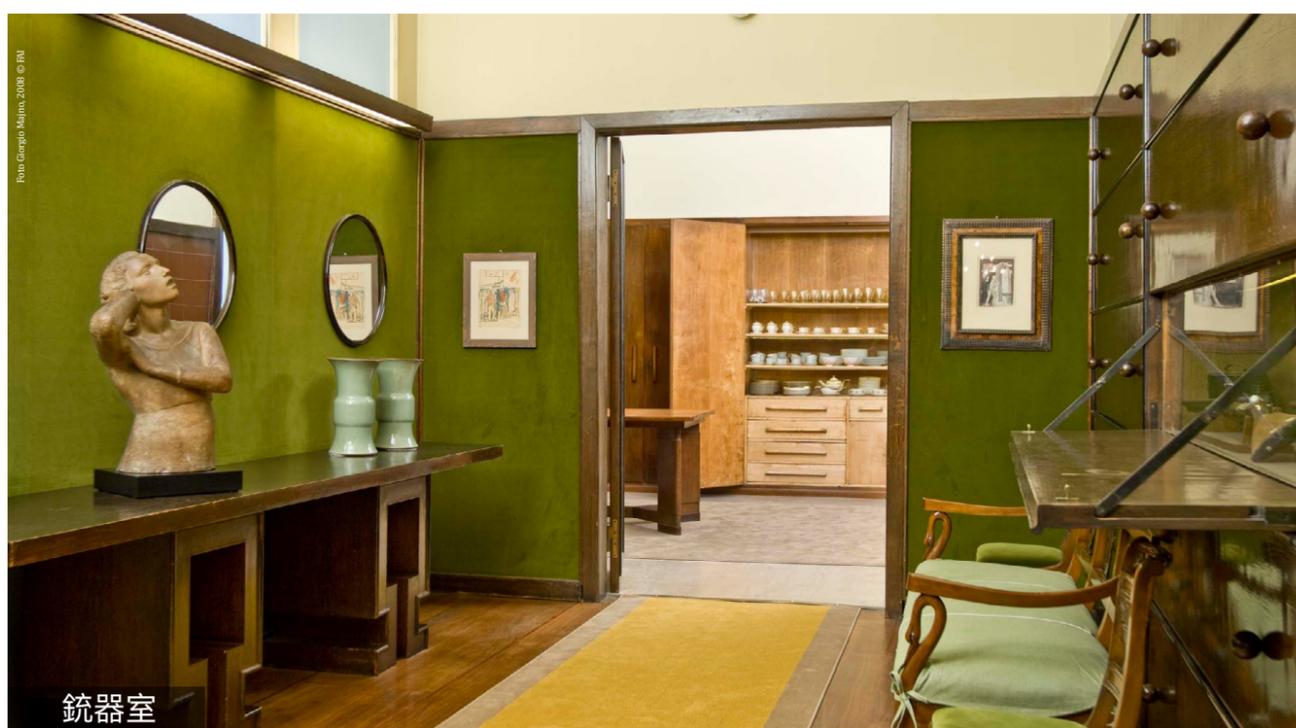
ダイニングルーム

オフィス（配膳室）は、ヴィッラの機能的側面を示しています。限られた空間ですが、配膳用リフト、発光式ボタン、幾何学的な格子、カンピリオ家の頭文字「C」が刻印されたジノリ製磁器を収めた収納など、当時最先端の設備が整えられていました。これらは、ただ美しいだけでなく、完全に機能的に設計された居住空間であることの証明となっています。



オフィス

銃器室には狩猟用の小銃と、ポルタルッピのデザインと考えられる胡桃材のテーブルが置かれています。ティモ・ボルトロッチェの彫刻は、親密で家庭的な雰囲気を加えるもので、この家で社交性と情愛が共存していたことを想起させます。数ある彫刻の中には、クラウディア・ジャン・フェラーリの母である娘アルバの肖像も見られます。



銃器室

続き



二階（プリモ・ピアーノ）

大階段は、ネッキ家が非常に落ち着いた日常生活を営んでいたプライベート・フロアへと続いています。中央のアトリウムは各部屋に繋がっており、右には衣装ギャラリーと二つの家族の居室、正面には客用居室、左には衣装系の部屋の先にクローゼットが配置され、すべての寝室には専用の浴室が備えられています。

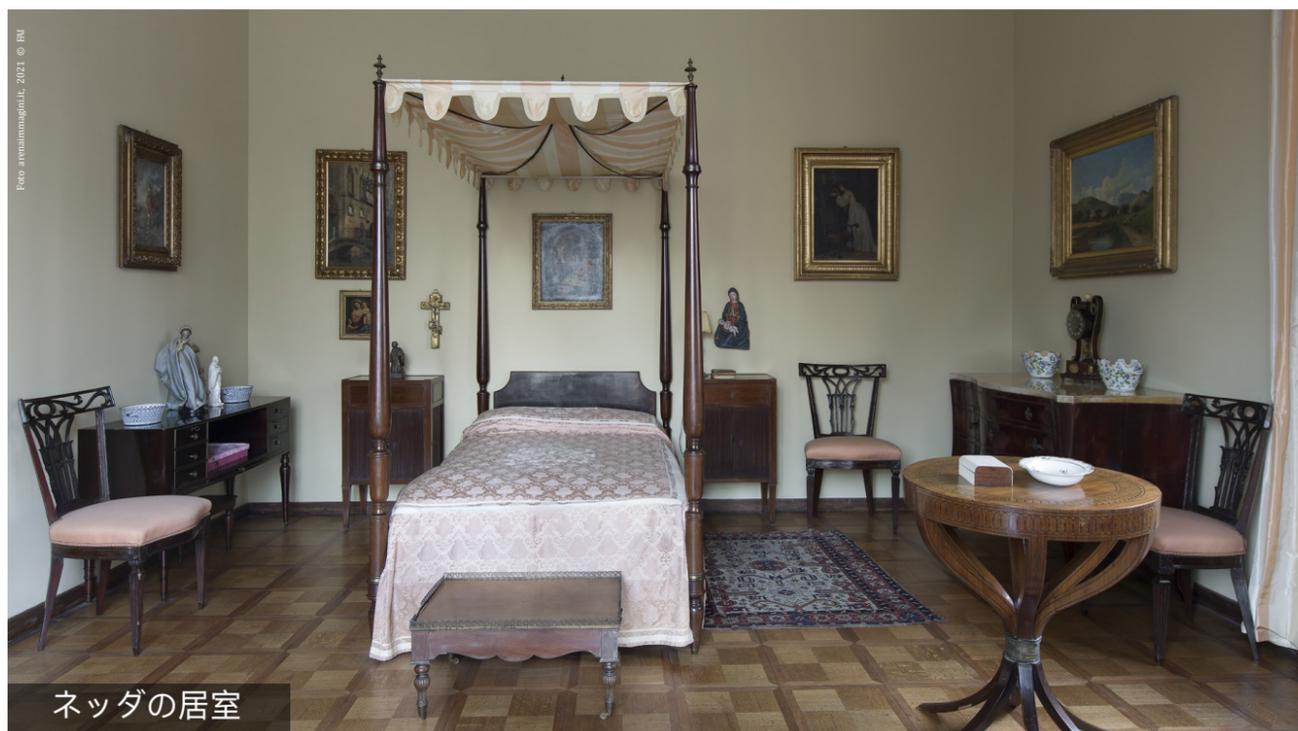
この階の美術作品のほとんどは元からこの家にあったもので、ネッキ家のヴェネツィア絵画への深い愛好を示しています。衣装ギャラリーの右脇にある2枚の絵画、パルマ・イル・ジョーヴァネ《東方三博士の礼拝》（17世紀初頭）とピエール・ダンディーニ《エステルとアハシュエロス》（17世紀末）は、いずれも現在はFAIに寄贈されています。

アンジェロとジジーナの居室は、ポルタルッピとブツィ両建築家の相を呈しています。マルモ・アラベスカートの大浴室はポルタルッピの設計で、多噴射式シャワー、バスタブや星形の特徴的な窓を備えています。前室と寝室はブツィによるもので、刺繍入りのカーテン、18世紀風家具や特注されたヘッドボードが見られます。部屋には、猫の形をした磁器など、愛着の品が飾られています。



アンジェロとジジーナの浴室

向かいにあるネッダの居室は、詩的と言ってもよいほど繊細で控えめな雰囲気を持ち、イギリスやトスカーナの家具、淡色の布地の天蓋付きベッドが備えられています。ブツィは、中のものが一目で分かる、一部透明の引き出しがある照明付き衣装棚をデザインしました。姉妹のために特別制作されたクリスチャン・ディオールのスカーフは特別に興味深いものです。



ネッダの居室

二つの客間は、ネッキ家の国際的な交友関係を物語っています。王子の間は、王家の一員であり、スカラ座でも高名な舞台美術家として活躍したエンリーコ・ダツシアが滞在した部屋で、現在はスフォルニ・コレクションが展示されています。

続き



ポルタルッピは、寝室、バスルームと更衣室を空間を閉ざすことなく区切るカルソ産黒大理石の間仕切りをデザインしました。

スフォルニ・コレクションは、紙作品21点から成るイタリアの住宅美術館では珍しいコレクションです。モディリアーニの8つの絵画は、より構築的な輪郭や、対照的な肖像画の流動的な線など、この芸術家のスタイルの多様性を表しています。部屋には、マティスとピカソのデザインが飾られ、貴重なルーチョ・フォンターナの紙作品が展示されています。

王女の間は、かつてサヴォイア家王女の MARIA・ガブリエッラが滞在したもので、現在は1995年にFAIに寄贈されたデ・ミケーリ・コレクションが展示されています。ここにはヴェネツィアの家具、高価な装飾品、磁器、そして2つの傑作、大運河の入り口を描いたカナレットの眺めと、ヴェネツィアのパステル画家ロザルバ・カリエーラの18世紀の肖像画があります。アラバスター製の浴室は、柔らかくに光を拡散させます。

王女 MARIA・ガブリエッラはこの光をことのほか愛したそうです。

使用人の部屋はブツィによって設計された小さな宝石とも言えるでしょう。優美な家具が置かれ、帆船を描いたシルクの室内装飾が施されています。アイロン室には当時の使用人の制服が展示され、邸宅の在りし日の生活を伝えています。



使用人の部屋

半地下階（セミインテラート）

半地下階の一部は来客専用で、プールのための更衣室やプライベート上映用の小さな映写室があり、これらは家族の近代的な生活様式を示しています。

他の区画は使用人の空間で、大型厨房、食器洗い場のある部屋、銀器保管室、使用人食堂があります。上階に行くためには、エレベーターやサービス用階段が用意されています。上階に接続されたボタンパネルは、家の主人が要求していた迅速で効率的な奉仕のためのものです。



半地下階

続き



この半地下階にはネッダ・ネッキの第二次世界大戦後の現代美術コレクションが収められていましたが、2000年代初頭に姉妹が亡くなった後、他の相続人に引き継がれました。

現在、半地下階は企画展や文化イベントの会場となり、ヴィッラの歴史を紹介する常設写真展示のほか、2001年の寄贈後に始まったFAIによる大規模な修復事業が行われています。2008年の一般公開は、ミラノとその訪問者に、機能性と美しさが完璧に調和した、20世紀イタリアを代表する空間の一つを楽しむ機会を与えました。

今日ヴィラ・ネッキ・カンピリオは、FAIの献身と熱意の象徴となっています。そこは建築、景観、芸術、そして私生活が融合し、20世紀イタリアの暮らしを最も美しく表現する場所なのです。



半地下階

Con il Contributo di



Regione
Lombardia



RegioneLombardia



Museo